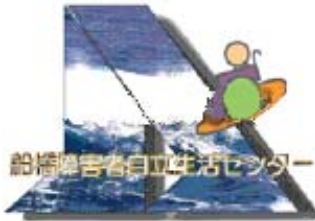


SSKP 船橋障害者自立生活センターニュース



2002年4月1日発行 第41号

編集：特定非営利活動法人
船橋障害者自立生活センター事務局

〒273-0005 船橋市本町2-4-4 花島ビル1F
郵便振替 「00140-9-609088」
TEL：047-432-4554 / FAX：047-432-4565
URL：http://www.cil-funabashi.org/

「全身性障害者介護人派遣事業」 介護人研修会を終えて



全身性障害者介護人派遣事業の研修会を2月9日から23日までに3回シリーズでおこないました。参加申込みは、初日の午前中に締切らなければならないほどの盛況でした。研修会には、シリーズを通して欠席者も少なく、みなさん熱心に受講されていました。

(詳細は、4ページをご覧ください。)



新スタッフ紹介

春は出会いと別れの季節ですが、事務局にこの春新しい仲間が増えました。土井康弘さんをご紹介します。

土井さんは、下の自己紹介にもあるように、インターネットのホームページで私たちのセンターの存在を知って訪ねてくれたことがきっかけになって3月から事務局スタッフに加わってくれることになりました。それだけに、パソコンの腕前はプロ級で、事務局の要として活躍してくれることと思います。ごらんの通りのハンサムな青年でもありますのでセンターの新しい顔としてお見知りおきのほどお願いいたします。



(杉井)



初めまして新人スタッフの土井と申します。3月から事務局での仕事を担当することとなり、間もなく一ヶ月を向かえます。

まず最初に簡単な自己紹介から。わたしは12年前、交通事故により受傷し「脊髄損傷」という障害を持ちました。以来、車椅子での生活を送っています。

わたしが最初に船橋自立生活センターを知ったのはインターネットホームページでした。当時の私は親元を離れ自立への第一歩を踏みだそうとしていた頃で、生活をしていく上で、住居、仕事などの色々な問題にぶつかりました。住宅に関しては公共の物件でバリアフリーなものという条件で探していたのですが、車椅子で生活するには難しいのが現状でした。運良く民間のアパート(車椅子対応)が見つかり契約をしましたが、環境的には申し分ないのですが金銭的には決して納得いくものではなく、現在公共の住宅に引っ越すというのが、当分の目標であります。

こうして私の障害者としての自立生活はスタートしましたが、前述した様々な問題を解決する為にも、センターで色々勉強や経験を積み、役立てていきたいと思っています。

最後にセンターでの仕事の目標ですが、健常者、障害者の気持ちを双方の立場で考えて人間関係をより良いものにしていければと思っています。

以上、簡単ではございますが、新人スタッフ 土井 康弘の挨拶とさせていただきます。



総会開催のお知らせ

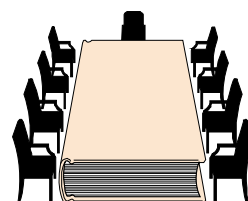
2002年度の定期総会を下記の要綱で行います。今回NPOになってはじめての総会であり、2002年度の活動の内容について議論する重要な総会となります。会員のみなさまには、近いうちに正式な案内状をお送りいたしますので今から予定を空けておいて頂いて、ご出席くださいますようお願いいたします。

記

日時 : 5月26日(日) 午後1時半から4時まで
場所 : 船橋中央公民館 第8集会室

理事会開催のご報告

先日の3月17日(日)に13時からセンター事務所にて、正式にNPO法人になってはじめての理事会を開催いたしました。出席者は6名で議題としては、今年度の事務局体制等について話し合いました。議事録を閲覧ご希望の方は、センターに来ていただくか、もしくはホームページにも掲載しておりますので、ぜひ読んでくださるようお願いいたします。



車イス体験 IN 船橋法典東小学校



東武鉄道馬込沢駅の近くにある船橋市法典東小学校(木村英夫校長)で6年生の福祉授業があり、自立センターのスタッフ6人が先生役で参加しました。木村先生のお話によると、同校は以前からこうした授業に取り組んでおり、昨年は視力や聴覚障害者のことを勉強したので、こんどは車椅子を使っている人のことをとりあげたとのこと。当日は75人の6年生全員が参加。電動や手動車椅子に乗った臨時センセイを囲んで、車椅子の押し方や構造を質問したり、自分たちで交替に車椅子体験をしたりして、90分のプログラムを楽しくこなしました。

学校は階段の多いところですが、当日使ったのは体育館でしたが、それでも入口に4段の段があり、大勢の先生方のお世話になりました。終わってから校長先生と一緒に給食をいただき、生徒たちに見送られて辞去しました。先生方はじめ、生徒の皆さん、ありがとうございました。

全身性障害者介護人派遣事業研修会のご報告

全身性障害者介護人派遣事業の介護人研修は、早いもので3期を迎えることになった。

今期の特徴は、介助する上で知っておかなければならない知識と、介助のノウハウなど、実践的なプログラムを組んだことである。以下は、今回のプログラムとその内容である。



- 2 / 0 9 第1回 「全身性障害者とは何か」
講 師 船橋市保健指導課 理学療法士 松川基宏
- 2 / 1 6 第2回 「生活の中の介助を体験してみよう」
講 師 船橋市保健指導課 理学療法士 松川基宏
船橋市身体障害者福祉センター 作業療法士 安間史子
以上、2回の会場は市中央公民館
- 2 / 2 3 第3回 「介助する人・される人」
講 師 日裏清司・工藤嘉央
山本明・杉井和男 3回目の会場は、市女性センター

1回目の講習は、まず、代表挨拶のあと、松川さんから全身性障害者についての講義があり、医学的に脳性麻痺がどういうものであるか、また脳性麻痺からおこる障害が、どういうかたちのものであるか、基本的なお話しがあった。介助をする上での貴重な講義となった。その後、質疑応答があった。

松川さんは、難しい話を噛み砕いて話されたが、それでも初めて聞く受講者にとっては難しいところもあったのではないかとと思われる。特に、二次障害についてはそのような感想を持たれたのではないかとと思われる。参加者の内訳は、男性13名、女性21名。



2回目は、松川さんと作業療法士の安間さんに講師としてお願いし、前項に書いたようなテーマで、実技講習をおこなった。

車椅子からベッドへの移乗、それに着替え、食事介助について、1日の生活の流れを想定したなかで、介助の実技講習をおこなった。また、実際にリフトを使用しての介助講習もおこなった。参加者は男性13名、女性19名。

3回目は、実際に全身性障害者の介護人として登録して活動されている日裏清司さんと工藤嘉央さんに体験談的な話しをしていただいた。さらに、全身性の利用者の立場から杉井和男と山本明の2人が介助を受ける側からの話しをした。その後、受講者は修了証書を授与された。参加者は、男性13名、女性17名。

(文責 山本)

第3回 “春の集い” が開かれました
— 13年度生活支援事業利用者懇談会 —

船橋市の委託でセンターが行っている障害者生活支援事業は今年が6年目になりますが、この事業の13年度利用者懇談会が3月15日に開かれました。これは11年度の一昨年から始めたもので、日頃、支援事業の相談室を利用している皆さんなどをお招きして、交流のひとつときをつくらうという集まりですが、今年もみんなで食事をしながらの和やかな会になりました。

参加者は35人。車いすの人だけでなく、視覚障害や精神障害の人、それにセンターのスタッフなどが加わり、山本副代表のあいさつ、出席者の自己紹介のあと、ゲスト役の山崎真弓さんのお話がありました。山崎さんはセンターが設立された10年前からのメンバーで、支援事業が始まってからは障害者のピアカウンセリングをされていた方ですが、12年から病気による療養生活に入られていました。ですから、この日はこうした会への久しぶりの出席でしたが、リクライニングの車いすに乗り、トーキングエイドを使って元気に話をされました。

トーキングエイドというのは、指で文字盤の文字をさすと、それが音声になって出てくる装置で、言語障害のある人などのための補助具です。一つずつ文字をさしていくので、それだけ時間はかかっていますが、山崎さんは辛抱強く文字を拾って、ご自分の療養のことや今後の希望などを語られました。これからさらにリハビリを受けて、もう一度自立生活に挑戦されたいということです。懸命な話ぶりと、前向きな姿勢で、終わると大きな拍手が起りました。

センターの生活支援事業は相談室で行っています。受けた相談は年間1000件を越えており、相談内容も多種多様です。業務の性質上、公開できないこともあります。そういう中で、少しでもつながりを広げ、継続した形の支援活動をめざすねらいから、この懇談会は始まりました。名づけて“春の集い”と言いますが、14年度も開催する計画です。(文責 宮尾)



ピアカウンセリング公開セミナーのご案内

今年も、自立生活の良さ、大切さを伝えるためにピアカウンセリングを行います。今年も、ピアカウンセリングとは何なのか？自立生活とはどういうものなのかを広く伝えるためにピアカウンセリング公開セミナーを行います。これは、障害者が体験するピアカウンセリングとは一体どのようなものかを実際にみんなで体験するセミナーです。みなさまふるってご参加下さい。

記

日時 平成14年4月20日(土) 13:30~16:30

場所 船橋中央公民館、体育レクリエーション室

参加資格 今回は公開セミナーですので障害のある・なしに関わらず、ピアカウンセリングに興味のある人はどなたでも参加できます。

定員 30名

申し込みについて 参加を希望される方は事務局に電話かFAXかメールして下さい。

申し込み・問い合わせ先 船橋障害者自立生活センター
〒273-0011 船橋市湊町1-20-3ミナトハイツ102
TEL 047-495-6777 FAX 047-495-6776
メール cil-funabashi@cil-funabashi.org
担当：石栗、昆

自立生活プログラムのご案内

今年も市町村障害者生活支援事業の一環で自立生活プログラムを行います。自立生活プログラムを初めて聞く人もどんなプログラムに興味をもっている人もふるってご参加下さい。

*自立生活プログラムとは...?

障害をもっている人が施設や親元をはなれて地域で、すぐに生活ができる訳ではありません。障害者が生活していくのに介助はどうするのか？などをみんなで考え実践して行くプログラムです。

*どんな人が参加できるのか

障害をもっている人で自立生活をしている人、自立生活に興味がある人はどなたでもかまいません。

*参加定員について

定員はみんなの時間が取れるように10人ぐらいの小グループでのプログラムを考えています。定員は7~8名で定員を越えてしまった場合はこちらで選考させていただきます。

*参加費用について

市町村障害者生活支援事業の一環で行われているので無料です。

*申し込み方法

次項の申込み用紙に必要事項をご記入の上、FAX、郵送、メールにて送ってください。なお、申し込みしめきり日は5月1日です。

申し込み・問い合わせ先 船橋障害者自立生活センター
〒273-0011 船橋市湊町1-20-3ミナトハイツ102
TEL 047-495-6777 FAX 047-495-6776
メール cil-funabashi@cil-funabashi.org
担当：石栗、昆

自立生活プログラム参加申込書

ふりがな
 名前 性別 () 年齢 歳
 住所 〒

TEL FAX

Eメール(ある人だけ書いてください)

障害名 _____

あなたの使っている補装具は？

<下のどれかに○をして下さい>

電動車イス 手動車イス 杖 白杖 補聴器

その他 ()

あなたは介助者をどうしますか？

<下のどれかに○をして下さい>

・自分で探して連れてくる ・センターに依頼する ・介助は特に必要ない

センターに依頼する場合どんな介助が必要ですか？

この講座に期待すること



平成14年度自立生活プログラム予定表

メインテーマ:素敵な自立生活するにはどうしたらいいか

回数	日にち	内 容	場所の予定
1	5月8日	自己紹介・目標設定	船橋女性センター
2	5月15日	自立生活している人の話を聞こう	船橋女性センター
3	5月22日	自立生活している人の家に行ってみよう	船橋女性センター
4	5月29日	障害について	船橋女性センター
5	6月5日	外出するには？(外出計画)	船橋女性センター
6	6月12日	介助者って何？	船橋女性センター
7	6月19日	介助者をどうやって集めよう	船橋女性センター
8	6月26日	さあ！外出だ！	場所についてはみんな で決める予定です。
9	7月3日	介助制度って何だろう	船橋女性センター
10	7月10日	どんなことがあったかな？振り返ってみよう	船橋女性センター

プログラムの時間は9の外出プログラム以外は13:30～16:30を予定しています。

また、9の場合は参加したメンバーで時間を決める予定です。

なお、場所、日程、内容は変更する場合があります。ご了承下さい。

